第1学年 国語科の実践

1 単元名 こえに出してよもう『はじめは「や!」』

2 単元目標 登場人物の言動から、様子を想像しながら読み、音読することができる。

【関心】 登場人物の言動やその変化の様子に関心をもち、物語を読み進めようとする。

【読む】 登場人物の言動から、様子やその変化を想像しながら読み、それが伝わるように工夫して音読することができる。

【話 聞】 人物の言動から想像したり考えたりしたことを話し合うことができる。

【伝国】 文中の主語と述語の関係をとらえることができる。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」を目指すための指導の工夫

研究課題・・・子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成

手立て・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり

低学年ブロックテーマ 「感じる心、素直に表現する自分」

・人の言動に何かを感じる姿・自分の思いや、他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

〈聴く・話すについての指導〉

まず、聴くことの大切さを指導した。さらに、一人では考えられないことをクラスのみみんなで考えを出し合えば、よい考えがたくさん出ること、そしてそれが学習であることも指導した。日常生活の中でも話すこと、聴くことを意識させるようにしている。話したいことがあるときは、「はい、はい」を連呼する児童もいるため、「はい。」と一度言い、手を挙げるように指導している。また、挙手するときには、「〇〇さんとにています。」「〇〇さんとちょっとちがうけど」など、友だちの意見につなげていけるように指導しているところである。ただ、まだ教師の発問に対して自分の考えをもつことができない子どももいるため、教師がどもたちの言葉を上手に紹介し、良い話し方、聴き方を一緒に考えながら友だちの前で自分の思いを話してみたいと思えるように雰囲気作りをしてきた。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

朝の会で日直のスピーチを行い、話したことに対して、友だちからの質問を受け、それに対して答えるというような活動を取り入れている。友だちからの質問に答えることがとても嬉しいようで、喜んで話している姿が見られる。また、係活動や、グループ活動などでは、子どもたち同士で関わりあえるよう声をかけ、クラス遊びの時間も大切にしてきた。隣同士で相談したり、班で自分の考えを発表したりするなど、自分の考えを話す機会を意図的に作り、話すことが楽しいと思えるように指導をしている。

学習中に、友だちの意見につなげていこうとする姿も見られているが、個人差が大きく、話し合いに参加できにくい児童や、声の小さい児童もいるので個に応じた支援が必要であると考え。みんなの前で発表する以外にも、ノートに書く、近くの友だちに考えを話すなど、子どもの実態を丁寧に把握していく。そして、自分の考えを表現しやすい方法を一緒に考えながら、話し合いが分かる子どもだけで進むことなく、みんなで一緒に考えていけるよう、全体を巻き込んで進められるようにしていきたい。

4 単元と指導について

〈単元について〉

低学年の物語文の学習では、登場人物に「同化」しながら読むことが大切となる。そうすることで、物語の世界にじっくり浸り、読み味わう体験を十分にさせたい。

本教材は、時間的な経過に沿って物語が展開しているので、読み取りやすい。くまさんときつねさんが何度も出会う場面では、くり返しの地の文や会話文、心内語があるため、子どもたちが想像を広げながら読んでいくことができる。また、主語と述語の整った分かりやすい文が多くなったり、それぞれの場面に二人の様子がよく分かる挿絵もあるため、挿絵と本文を対比しながら二人の様子や気持ちを楽しくとらえていくことができる。

本教材は五つの場面から構成されている。第1場面と第2場面では、二人が偶然に出会うが声をかけることなく黙って通り過ぎる。続く第3場面では、お互いの存在に気づかず通り過ぎる。第4場面で、二人は「や。」と声をかけ合い、第5場面で、次の日にまた出会った二人が「いちばんの友だち」になる。

友だちづくりについて子供たちの経験にも関わりが深いという点で、親しみのもてる作品でもある。「くまさん」が「きつねさん」と会うたびに抱く思いは、普段の生活の中で子どもたちが友達に対して抱く思いと共通するところが多いからである。二人の言動から様子や心の変容を、子どもたちが登場人物に「同化」しながら楽しくとらえることができる教材である。

〈指導について〉

今までも吹き出しに登場人物の気持ちを書く学習を行ってきた。「たぬきのじてんしゃ」ではたぬきの気持ちを、「おおきなかぶ」では、おじいさんの気持ちを考えてきた。この学習活動でも、くまさんやきつねさんの気持ちを考える活動を通して、自分の読みをもてるようにさせていきたい。自分の考えをもちにくい児童や拾い読みをしていて内容を理解しにくい児童もいるが、場面ごとの人物の言動などを抜き出し、みんなで一緒に気持ちを考えながら、自分の考えをもてるようにしていきたい。友だちの考えを聞く中で、「〇〇さんににているな。」「こう話せばいいんだな。」と、自分なりの思いや考えを持ち、自分もみんなの前で話してみたいと思えるよう、声をかけていきたい。また、一人一人の読みの交流によって深まったみんなの読みを生かしながら、「くまさんときつねさんの近づき度」を場面ごとに考えながら、くまさんやきつねさんの気持ちを想像し、ふたりになって気持ちを書き、考えを交流し合うことで、自分の読みを深められるように指導していきたい。

本時は、道や横断歩道などで何度もすれちがったけど、「友だちじゃない」から話さなかった二人が初めて会話をする場面となる。心の中ではお互いに思いがあった二人が「や。」「……や。」と話すことになった心情を、ふたりのしたことや言ったことから丁寧に読み取って、考えの交流をしていきたい。「二人は友だちになりたかったのかな。どうしてくまさんは荷物をもってあげたくなかったんだろう。」などの初発の感想から、子どもたちから生まれるであろう「「や」とチャンスがきたんだよ。」」「おたがいにずっときになってんだよ。」」「きつねさんがたいへんそうだったからだよ。」」という様々な考えを引き出し、次時からの「ふたりの気持ちは近づいたのかな。」を読み取らせていくことにつなげていきたい。「ふたりはどんな気持ちになったのかな」を本文の叙述を根拠にあげ自分の考えを持ち、友だちの考えを聴いたり自分の考えを伝えたりする中で、いろいろな考えがあることに気づくことができる姿をひびき合いの姿としていきたい。自分の考えをより明確にするためにワークシートや挿し絵を用いて、聴き手側が視覚的にも理解できるよう工夫していく。大きなかぶでも、学習のまために音読劇をしてきたが、「この話でも早く劇がしたいな。」と子どもたちは楽しみにしている。友だちではなかった二人が、勇気を出してやっと友だちになったその様子や変化を想像し読み取りながら、二人の気持ちの変化が伝わるように工夫して、くまさんときつねさんになりきってみんなで音読劇を楽しみたい。

◎単元目標 登場人物の言動から、様子を想像しながら読み、音読することができる。

読書週間にどんな本を読もうかな

- ・なんのお話を読もうかな。
- ・むかし話がまた読みたいな。
- ・人が主人公のお話がいいな。
- ・動物が主人公のお話はかわいいからまた読みたいな。
- ・「おおきなかぶ」の話楽しかったな。

読んだ物語でまた音読劇をしたいな。

・初発の感想を書くことができる。(関心)

・登場人物の言動やその変化の様子に関心をもち、物語を読み進めようとする。(関心)

・人物の言動から想像したり考えたりしたことを話し合うことができる。(話す・聞く)

・登場人物の言動から、様子やその変化を想像しながら読み、それが伝わるように工夫して音読することができる。(読む)

はじめは「や！」ってどんなお話なんだろう①②

- ・なんですれちがっちゃうのかな。・ともだちになれてよかったね。
- ・ふたりはゆうきをだしてはなせてえらいな。
- ・なんで4のばめんでもなかよくなったのかな。
- ・なんでくまさんはもつをもってあげたくなったのかな。
- ・じつはふたりはともだちになりたかったのかな。
- ・なんでふたりのきもちちはちがづいたの？

児童の感想から全文を通して課題を作っていく。

ふたりはどんな気持ちなのかな

第1場面 ふたりはともだちになりたかったのかな③

- ・ふたりともしらんぷりしてるよ。
- ・まだ知らないからだよ。・ともだちじゃないからかな。
- ・でも知らない人でもあいさつはするんじゃないかな。
- ・きつはずかしなんだよ。へんじがないとかなくなるし。
- ・くまさんもきつねさんもまよっているんじゃないかな。

ふたりの近づき度を場面ごと確かめていく。

言葉に着目することで、少しずつ変容していくことをとらえられるようにする。

第2・3場面 ふたりはどんなきもちなのかな④⑤

【道ですれ違うふたり】「……。」「……。」

- ・やっぱり恥ずかしいんじゃないかな。
- ・声をかけてくれたらいいのって思っているんじゃないかな。
- ・自分からは話しかけられないよ。
- ・だってまだ友だちじゃないじゃん。

【横断歩道で通り過ぎるふたり】「……。」「……。」

- ・くまさんは本屋さんのことであたまがいっぱいなんだよ。
- ・きつねさんも自分の買い物のことばかり考えているんじゃないのかな。

第4場面 ふたりはどんなきもちなのかな⑥(本時) ⑦

- ・やっとチャンスがきたんだよ。・きつねさんが大変そうだったからだよ。
- ・ふたりともちらっとみてるよ。がんばって勇気を出したんだね。
- ・きつねさんはうれしそうだね。
- ・どうしてきつねさんは「……や」だったのかな。

「や。」と「……や。」の違いに着目できるようにする。

くまさん「や。」

- ・きつねさんたいへんそうだな。
- ・ずっと話しかけたからうれしいな。
- ・やっとともだちになれるかな。
- ・荷物ももってあげよう。

きつねさん「……や。」

- ・話しかけてくれてありがとう。
- ・自分からは話しかけられなかったからうれしいな。
- ・荷物ももってくれるなんてやさしいな。
- ・今日はくまさんにあえて本当に良かったな。

第5場面 ふたりのきもちちはちがづいたのかな⑧

- ・二人とも友だちになれて良かったね。・もっと仲良くなりたいんじゃないかな。
- ・くまさんはきつねさんに会いたくてまたさんぽにでかけたのかな。
- ・だから、また同じベンチにすわったんだ。・もっと話したいんだよ。
- ・「やあ やあ やあ」って3回言ってるね。・「や」ではたりないぐらいうれしかったんだよ。
- ・「やあ やあ やあ やつともだちになれてうれしいです。」
- ・「やあ やあ やあ じつは初めて会ったときからずっとなかよくなりましたかったんです。」
- ・「やあ やあ やあ こんどいっしょにおかいものいきたいね。」
- ・はじめはぎこちなかったのにたくさんはなせるようになったね。
- ・きつときょうがいちばんふたりがちがづいたのかな。

「やあ やあ やあ。」の言葉に着目できるようにする。

- ・荷物ももってあげたくなったときかな。・初めて話をしたときかな。
- ・話はしてないけど、気になったときからじゃないかな
- ・次の日に一番の友だちになったって書いてあるよ。
- ・ぎこちなかったふたりが、なかよくなったときだよ。

挿絵や掲示物などを工夫し、考える時のよりどころとなるようにする。

ふたりになったつもりで音読劇をしよう⑨発表⑩

6 本時について

- (1) 本時目標 二人がどんなきもちになったのかを読み取り、自分の考えをもち、友だちの考えを聞く中で、いろいろな考えがあることに気づき深めることができる。
- (2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点【評価】
<p>ふたりのちかづきどほどのくらいかな。</p> <p>いままででいちばんちかづいたんじゃないかな。</p> <p>いちばんではないよ。</p> <p>きつねさんちよつとやすんでいくといいのに</p> <p>そつとひびきにおきました。</p> <p>ここにすわっていいよ</p> <p>きつねさんきづいてくれるかな</p> <p>いまがはなすチャンスかも。</p> <p>「や。」</p> <p>やっどこえがかかれたぞ。</p> <p>へんじてくれるかな。</p> <p>荷物を持ってあげたくまりました。</p> <p>「はんぶんもちましょう。」</p> <p>にもつがたいへんそうだからもつてあげよう。</p> <p>「や、ありがとう。どうもどうも。」</p> <p>「や、ありがとう。どうもどうも。」</p> <p>くまさんやさしいな。</p> <p>ありがとうがとらえてよかったな。</p> <p>あ、くまさんがいる。</p> <p>はなしかけようかな、できないな。</p> <p>きょうはくまさんにあえてよかった。</p> <p>「・・・や。」</p> <p>はなしかけてくれてうれしいな。</p> <p>きょうはくまさんにあえてよかった。</p> <p>「・・・や。」</p> <p>ふたりはどんなきもちになったのかな。</p> <p>くまさん</p> <p>きつねさん</p>	<p>○本時のめあてを確認し、学習意欲がもてるようにする。</p> <p>○第4場面を読み内容を確認する。</p> <p>○全体で話し合う前にペア交流をして、自分の考えや意見に自信をもてるようにする。</p> <p>○根拠となる叙述や自分なりに読み取ってきた理由も発表するように声をかける。</p> <p>○必要に応じて動作化を取り入れ、根拠がさらに明確になるようにする。</p> <p>○挙手するときに、同じ、似ている、他にあるなどが言えるように声をかける。</p> <p>○ふたりの近づき度を確認する。 (進み具合によってその都度近づき度を確認する)</p> <p>◆人物の言動から、想像したり考えたりしたことを話し合うことができる。 【話す・聞く】</p>

7 実践を終えて

【単元構想について】

本を読むことが好きな児童が多く、物語文の学習では登場人物の気持ちを意欲的に考え、動作化をしながら物語の世界を楽しんできた。「おおきななぶ」を学習した時には最後には音読劇を楽しんだ。今回は読書週間と重なり、子どもたちは新しい話と出会うことを楽しみにしていたので、くまさんときつねさんが何度も出会うこの話は子どもたちが想像を広げながら読むことができた。「ふたりは友だちになりたかったのかな。」「ふたりの気持ちはいつ近づいたんだろう。」などの初発の感想から、場面ごとに「ふたりの近づき度」を確認し合いながら、登場人物の気持ちを考える活動を行った。自分の考えをもちにくい児童には場面ごとの人物の言動などを抜き出しながらみんなで一緒に気持ちを考えながら自分の考えをもてるようにした。場面ごとにワークシートの吹き出しにくまさんときつねさんの気持ちを書いていった。近づき度の確認は掲示物と同じシートを用意した。挿絵や掲示物を工夫することで、考える時のよりどころとなるようにした。

【本時について】

本時では、今まで会話をしなかった二人が初めて会話をする場面だったので、子どもたちはとても楽しみながら授業に臨んでいた。今までのワークシートを振り返ったり、掲示物を見ながらくまさんの気持ちを考えたりする中で、自分の考えをもち、一生懸命発表することが出来ていた。

ただ、相互指名になってしまったことで、話し合いがいろいろな場面についてしまい、視点を焦点化することが難しかった。そのため、今どの言葉のどの気持ちを考えているのか、分からなくなってしまった児童もおり、同じ土俵で話し合うことができなかった。また、毎時間、まずは自分で気持ちを考え、ワークシートに書き、発表をし、最後に「ふたりの近づき度」を確認してきたが、「近づき度」をみんなで確認する場面が一番盛り上がり

た場面でもあったので、最後ではなく初めからその表を使いながら授業を進めていったほうがより子どもたちがひびき合う場面が見られたのではないかと課題が残った。

子どもたちがひびき合う場面を作るには、子どもの実態に合わせた授業展開が必要だったことと、キーワードとなる言葉や文にもっと丁寧に立ち戻り、深い読みにつなげる教師の出所が曖昧であったことに気づくことができた。

【本時後について】

子どもたちはこの学習にとっても意欲的で、「ずっと話していなかった二人が、どうして話せるようになったんだろう。」「二人の気持ちはいつ近づいたんだろう。」と毎回楽しそうに心情曲線を使いながら読み進めてきていた。本時の課題を生かし、心情曲線を活用しながら話しあう中で、「まだ、本当には近づいていないよ。」「まだ友だちにはなっていないよ。」との子どもたちの言葉を拾いながら、「もっと近づきたいのか。」と一歩踏み込んだ近づき度まで子どもたちと話しあう場面も作ることができた。書くこと、読むことが苦手な子どもたちは、動作化を取り入れ、掲示物を工夫することで、意欲的に授業に参加する姿が見られた。今まで友だちのまえて考えを話すことがなかった子が自分の考えを話す場面見られ、嬉しく思った。単元の振り返りでは、「国語の時間が楽しみだった。」「友だちの考えを聞くことが楽しかった。」「みんなとの話し合いの時間が好きだった。」などの声があった。

友だちの言葉に何かを感じ、自分の思いや友だちからの刺激を受け止め、自分を素直に表現することを目指し、「ひびき合い」に重点を置き、授業作りをしてきた。そのためにも、一人ひとりが安心して自分の思いを話すことができるようお互いを認め合うことができる温かい雰囲気作りを大切にしてきた。また、「話す、聴く」のクラス目標を明確にし、子どもたちのつぶやきを大切にしながら単元構想を作ってきた。これからも子どもたちの思考を大切にしながら、子どもたちの深い学びのために日々研鑽していきたい。